

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373100835		
法人名	株式会社 いわしや窪田		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 やすらぎの里にしき		
所在地	熊本県球磨郡錦町大字西鳥越141		
自己評価作成日	平成25年6月7日	評価結果市町村報告日	平成25年8月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区上通町3-15 ステラ上通ビル4F
訪問調査日	平成25年7月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、入居者のそれぞれの個性を尊重しながら、思いをくみ取り、意向に添った介護を目指している。ホール・居室内は自由に行き来されるように見守りを続けている。園庭でのお茶会・焼きそば会焼き肉会等の行事を取り入れ、ホーム内での生活にメリハリが出るように計画している。毎月の誕生会には地域のボランティアに訪問を依頼し、踊りや歌・手品等を披露してもらっている。夏祭り等は地域の方々との共催で開催し、交流を深めている。又、地域の行事への招待もあり、参加をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から入った集落の入り口に和風のホームが二棟コの字型に建っている。広い敷地を活用し地域と合同で夏祭りを開催したり、日頃はお茶会や昼食会をするなど気分転換の場とされている。夏祭りでは地域の方と一緒ににおにぎり・焼き鳥・焼きソバなどを準備し、子どもから高齢者まで200名程の参加があり、また定期的にボランティアの方が訪問するなどホームの認知度も高まっている。法人本社と離れており、代表者にかわり統括部長が運営推進会議等に出席しなるべく現場を把握するよう努めている。職員のチームワークは良く何でも意見を言い合える関係ができています。入居者は重度化が進んでおり、今後は個別の楽しみごとを把握し、ケアプランへの反映や生活リハビリを通して身体機能維持・低下防止に努められることに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		取り組みの成果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に「理念」の唱和を行っていたが、現在はその機会が少なくなっている。機会を見つけ、今後は理解し実践へ繋げるように努力していきたい。	設立時に代表が考えた理念を玄関やリビングに掲示している。入職時に管理者より説明があり、何か行き詰った時には常に理念に戻るように話している。職員会議でも理念の振り返りの機会を持つよう努めている。	理念はホームの柱となるものです。地域密着型と位置づけられた事を機に職員間で話し合い、目標となるものを掲げ、家族・地域にも発信される事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事に地域方々の訪問等を依頼(ボラティア)したり、地域の行事に参加してお互いが交流の場としている。又、地区の美化作業・リサイクルの日等には職員が参加している。	自治会に加入し、回覧板等で地域の年間行事を把握し参加している。清掃作業や2ヶ月に一度はリサイクル作業に職員が参加している。敬老会や蕎麦の種まき・収穫祭には招待があり公民館へ出かけ交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設での地区合同の夏祭り・敬老会・町民参加のグランドゴルフ大会等を通じ、パンフレットの配布や現状を報告している。行政の認知症講演や徘徊声かけ模擬訓練等にも職員が参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月一回の職員全体会議において報告し、問題点があれば検討会を実施している。	区長・民生委員・行政職員・包括支援センター職員・家族代表等のメンバー構成で2ヶ月ごとに開催されている。主にホームの状況や活動報告を行っている。	会議の討議内容の検討や認知症に関するミニ講座など、会議に幅を持たせる工夫と会議録の整備を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居・退去の連絡。事故報告等の連絡や運営推進会議での協議事項・連絡等を行っている。又、各報告書等の方法を助言してもらっている。	日頃より報告や相談等を行い、情報交換を行っている。行政職員からも空き状況の問合せがあり、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はせずに見守り・所在確認を確実に行う事で対応している。	スピーチロックを含め身体拘束をしない介護に努めている。日中は玄関の施錠はせず、外へ出たいそぶりのある方には見守り重視の対応を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については学習の機会を作る必要がある。介護方法や言葉かけについても、常に尊厳を持って対応している。又、入浴時には皮膚等の状態観察を行い、特変があれば管理者へ報告・連絡・相談を行う		

グループホーム やすらぎの里にしき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員間での学習・研修の機会がなされていないが、今後は研修会等の参加を勧め、理解を深める手段を取っていききたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時又は改正時には十分な説明を行うと共に家族・身元引受人様からは情報を頂き、本人の今までの生活を維持できるように支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設けているが、投稿して頂くことはまれである。月1回の「やすらぎの里だより」にてご本人様の状態を報告し、家族からのご意見は随時頂く様にしている。今後はアンケート等にて、意見要望等を取り入れて行きたい	毎月、居室担当職員の一口コメントを記入した「やすらぎの里だより」を送付し、入居者の状況を報告している。面会時になるべく意見を引き出すよう努めている。	遠方の家族も多く、なかなか面会も困難なようですので、家族との接点を見出し、意見を引き出す工夫に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務に追われ職員との対話が不十分であるが、今後は一人一人の建設的な意見や仕事に対する思い等を聴く機会を設けて、運営に反映していくように努めたい	管理者は日頃より職員の思いや意見を把握するように努め、職員間で検討するようにしている。解決できない事は代表や統括部長に相談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の勤務をチェックし、時間外等も記録している。事業所内での会議や研修等の参加を促している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員がスキルアップ出来るように各研修会等を勧めると共に、機会の確保を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設間の交流会や研修会には参加を促し、お互いの情報交換の場を持ち、自己研さんに努めてる		

グループホーム やすらぎの里にしき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族を交えて入居に至るまでの経過や生活歴・ライフステージに添った本人の思い等を把握した上で見守り・声かけを心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望・要望を気軽に相談できるように、対話の機会を持つようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至った経緯を理解すると共に、生活環境の変化で症状が悪化しないように努め、帰宅願望の対処方法などを家族と相談している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中でも、ご本人の人格を尊重し、本人の能力に応じた声かけ・質問方法を考慮するようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「広報」にて本人の近況報告や行事への参加を呼び掛けている。又、ご家族が気軽に訪問できるように、笑顔で明るく迎えるように心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方々の訪問があつている。又、本人がやりたいこと・行きたい所へは出来るだけ意向に沿えるように努めている	行きつけの美容室へ送迎したり、家族の協力を得ながらお墓参りなどの支援を行っている。お誕生会には地域のボランティアに依頼し、馴染みの方と交流を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの個性に合わせた環境(テーブルの席の並び)でお互いが見えて、孤独を感じない距離での空間を提供している		

グループホーム やすらぎの里にしき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の際、現在までの経緯等を家族に伝えると共に家族よりの情報を得ている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人様の思いを傾聴し処遇に努めている。職員がその人を知る・・・という事で何を求めておられるのかを理解し、最善の方法で支援し接している	日常の会話や関わりの中から意向等を把握しよう努めている。意思表示が困難な方は表情やしぐさから読み取るように努めている。	車椅子利用者も多いようです。特に身動きが不自由な方には、体調把握や意向の確認のため声かけなどされることも期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それぞれの生活歴を把握し、それに応じた環境作りに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身の状況を理解しその人が出来ること出来ない事を把握し支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成とモニタリング時には利用者の把握に努め、ケア会議にて現状を見極め、ケアプランに沿って介護している	担当職員と計画作成担当者が話し合い計画書を作成している。ケア会議で他の職員の意見を聞き完成させている。その後、家族に説明し同意を得ている。退院時にはその都度検討し、現状に即した計画を作成している。	計画に沿った介護記録の工夫により、モニタリングへ活かせるような取り組みも期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活面を職員間で申し送りして、個別の変化に十分に対応できるように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人に必要と思われる事は家族に連絡し、その人らしい生活が出来るように取り組んでいる		

グループホーム やすらぎの里にしき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事等にはできる限り参加を促し、メリハリのある楽しい生活が出来るように支援していく		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診が行われている。又、主治医が協力医以外の利用者については定期的に送迎にて受診が来ている。緊急時には主治医の指示を仰いで対応している	希望するかかりつけ医とし、協力医(内科)は定期的な往診があり、その他は職員が同行受診を行っている。受診の際には情報提供を行い適切な医療を受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の指示を受けながら介護職が動く様にしていく。又、分からない事は相談しながら対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換は常日頃から行っている。入院の際は職員が随時訪問して様子をうかがっている。その様子は職員間で把握している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書等で確認は行っているが、実際の場合は家族と連絡を取りながら対応している。日々の変化には十分に注意して、変化に気づいたときは、看護師・主治医・管理者、家族に連絡を取る。	入居時に「重度化及び看取りに関する指針」を説明し同意を得ている。重度化した場合には医師の説明を受け、再度家族の意向を確認している。主治医・家族・管理者等で話し合い最善の支援を行うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設間の交流会や研修会には参加を促し、お互いの情報交換の場を持ち、自己研さんに努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火避難訓練等は実施しているが、水害・震災避難訓練等は実施できていない。今後検討する	防火避難通報訓練を行っている。地元の消防団へ協力は依頼している。地震や風水害に関する対策は検討中である。	地元消防団員へ車椅子利用の方の居室を分かりやすく表示する工夫や地震・風水害に関する災害対策への取組も期待します。

グループホーム やすらぎの里にしき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	表情や行動を見ながら対応し、入浴時・排泄時は特に自尊心を考慮しながら対応している	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけを行い、入浴時や排泄時、失禁時にはプライバシーに配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「美容室に行きたい」「散歩したい」等の希望があれば、希望に沿った対応をしている。中庭に出たい人もおり、見守りしながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示出来る人・出来ない人それぞれであるが、表情・行動を見ながら、職員の声かけにて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着と寝巻は交換している。汚染した時も直ぐに対応している。美容室に行く人、職員が散髪する人とそれぞれであるが、髭剃り等も含めて常に気をつけてその人らしい身だしなみを心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢者が多く、一緒に食事作りは出来にくい、材料の準備(皮むき・野菜洗い)等の出来る人にはお願いしている。食後の台ふきをお願いする事もある	献立は職員がたて、入居者の能力に応じて野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、おしぼり準備、お盆拭きなどお願いしている。嚥下の状態に応じて刻み食・ミキサー食の形態にし提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの咀嚼・嚥下状態・便秘・下痢等の状態に添った調理法を取り入れつつ、おやつは好きな飲み物等を準備するなどしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを促し、自分で出来る人・出来ない人、それぞれに介助している。		

グループホーム やすらぎの里にしき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の意思表示が出来る人はその都度トイレ誘導している。尿意・便意のない人は定期的にトイレ誘導し、排泄後は状態を記録している。	時間やしぐさで声かけ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。自立している方も多く、一人ひとりの状態に応じ、布パンツ・リハパンツ・パットを使い分け、また夜間のみポータブルを利用している方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認を行い、処方された内服薬で様子観察している。食事の工夫・レクリエーションや体操への参加呼びかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴に努めている他に本人が入りたいときは出来る限り希望に応じて実施している	週2回の入浴を基本に、その他希望があれば応じるようにしている。失禁時にはシャワー浴等に対応し清潔保持に努めている。入浴拒否の方には言葉かけに工夫をしタイミングを計るようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて休憩を取ってもらったり、夜間では水分補給や空腹感がある人には小さめのおにぎり等を食べてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示の下、看護師が分別を行い投薬準備を行っている。内服時には名前の確認をして服用してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや取り入れ等、出来る方については役割をお願いしている。中庭での日光浴・散歩等は気分転換のために実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて郡市内の花見や年中行事等に出かけている。その他、有料ホームと合同でドライブや花見に出かけている。又、お墓参りの希望があれば、家族と共に出かけることもあっている。	毎月1日・15日には近くの神社へ参拝に出かけたり、年2回のワックスがけの時にはお弁当持参で温泉施設に出かけるようにしている。季節ごとの花見やドライブ、中庭で昼食を摂るなど気分転換を図っている。家族の協力を得ながらお墓参りに出かける方もおられる。	

グループホーム やすらぎの里にしき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては基本的に所持しないようにしているが、どうしてもいくらかは自分で持っていたいと言う人には持ってもらい、金額の確認をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話は可能である。家族からの電話等も引き継いでいる。手紙のやり取りはあっていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や写真を飾ったりしている。ホール内にはBGMを流したりしている。室内の空調管理も心地よく過ごしてもらうように様子を見ながら配慮している。	季節感のある飾りつけや生花が飾ってある。広いリビングには畳コーナーやソファが設置しており、思い思いに過ごせるスペースが確保してある。室内の温度設定に配慮し、居心地よく過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの席の並び具合については、気の合う人を並んでもらったりしている。ソファだったリイスだったりとその時に応じて変わってもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具・持ち物はご自分の馴染みの物をご持参してもらっている。室内の飾り物も家族や本人の思いを大切にしている。問題行動がある場合は衣類を一部預っていることもある。	入居時に馴染みの物を持ち込んでもらうよう伝えている。ソファ、ダンス、テレビ、位牌、時計などの持ち込みがあり、一人ひとりにあったレイアウトや、写真の飾りつけを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のやりたいことを思いのまま実施して頂いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373100835		
法人名	株式会社 いわしや窪田		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 やすらぎの里にしき(なし棟)		
所在地	熊本県球磨郡錦町大字西鳥越141		
自己評価作成日	平成25年6月7日	評価結果市町村報告日	平成25年8月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区上通町3-15 ステラ上通ビル4F		
訪問調査日	平成25年7月10日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に「理念」の唱和を行っていたが、現在はその機会が少なくなっている。機会を見つけ、今後は理解し実践へ繋げるように努力していきたい。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事に地域方々の訪問等を依頼(ポラティア)したり、地域の行事に参加してお互いが交流の場としている。又、地区の美化作業・リサイクルの日等には職員が参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設での地区合同の夏祭り・敬老会・町民参加のグランドゴルフ大会等を通じ、パンフレットの配布や現状を報告している。行政の認知症講演や徘徊声かけ模擬訓練等にも職員が参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月一回の職員全体会議において報告し、問題点があれば検討会を実施している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居・退去の連絡。事故報告等の連絡や運営推進会議での協議事項・連絡等を行っている。又、各報告書等の方法を助言してもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はせずに見守り・所在確認を確実に行う事で対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については学習の機会を作る必要がある。。介護方法や言葉かけについても、常に尊厳を持って対応している。又、入浴時には皮膚等の状態観察を行い、特変があれば管理者へ報告・連絡・相談を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員間での学習・研修の機会がなされていないが、今後は研修会等の参加を勧め、理解を深める手段を取っていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時又は改正時には十分な説明を行うと共に家族・身元引受人様からは情報を頂き、本人の今までの生活を維持できるように支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設けているが、投稿して頂くことはまれである。月1回の「やすらぎの里だより」にてご本人様の状態を報告し、家族からのご意見は随時頂く様にしている。今後はアンケート等にて、意見要望等を取り入れて行きたい		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務に追われ職員との対話が不十分であるが、今後は一人一人の建設的な意見や仕事に対する思い等を聴く機会を設けて、運営に反映していくように努めたい		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の勤務をチェックし、時間外等も記録している。事業所内での会議や研修等の参加を促している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員がスキルアップ出来るように各研修会等を勧めると共に、機会の確保を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設間の交流会や研修会には参加を促し、お互いの情報交換の場を持ち、自己研さんに努めてる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族を交えて入居に至るまでの経過や生活歴・ライフステージに添った本人の思い等を把握した上で見守り・声かけを心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望・要望を気軽に相談できるように、対話の機会を持つようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至った経緯を理解すると共に、生活環境の変化で症状が悪化しないように努め、帰宅願望の対処方法などを家族と相談している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中でも、ご本人の人格を尊重し、本人の能力に応じた声かけ・質問方法を考慮するようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「広報」にて本人の近況報告や行事への参加を呼び掛けている。又、ご家族が気軽に訪問できるように、笑顔で明るく迎えるように心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方々の訪問があっている。又、本人がやりたいこと・行きたい所へは出来るだけ意向に沿えるように努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの個性に合わせた環境(テーブルの席の並び)でお互いが見えて、孤独を感じない距離での空間を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の際、現在までの経緯等を家族に伝えると共に家族よりの情報を得ている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人様の思いを傾聴し処遇に努めている。職員がその人を知る・・・という事で何を求めているのかを理解し、最善の方法で支援し接している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それぞれの生活歴を把握し、それに応じた環境作りに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身の状況を理解しその人が出来ること出来ない事を把握し支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成とモニタリング時には利用者の把握に努め、ケア会議にて現状を見極め、ケアプランに沿って介護している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活面を職員間で申し送りして、個別の変化に十分に対応できるように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人に必要なと思われる事は家族に連絡し、その人らしい生活が出来るように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事等にはできる限り参加を促し、メリハリのある楽しい生活が出来るように支援していく		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診が行われている。又、主治医が協力医以外の利用者については定期的に送迎にて受診が来ている。緊急時には主治医の指示を仰いで対応している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の指示を受けながら介護職が動く様にしていく。又、分からない事は相談しながら対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換は常日頃から行っている。入院の際は職員が随時訪問して様子をうかがっている。その様子は職員間で把握している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書等で確認は行っているが、実際の場合は家族と連絡を取りながら対応している。日々の変化には十分に注意して、変化に気づいたときは、看護師・主治医・管理者、家族に連絡を取る。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設間の交流会や研修会には参加を促し、お互いの情報交換の場を持ち、自己研さんに努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火避難訓練等は実施しているが、水害・震災避難訓練等は実施できていない。今後検討する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	表情や行動を見ながら対応し、入浴時・排泄時は特に自尊心を考慮しながら対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「美容室に行きたい」「散歩したい」等の希望があれば、希望に沿った対応をしている。中庭に出たい人もおり、見守りしながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示出来る人・出来ない人それぞれであるが、表情・行動を見ながら、職員の声かけにて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着と寝巻は交換している。汚染した時も直ぐに対応している。美容室に行く人、職員が散髪する人とそれぞれであるが、髭剃り等も含めて常に気をつけてその人らしい身だしなみを心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢者が多く、一緒に食事作りは出来にくい、材料の準備(皮むき・野菜洗い)等の出来る人にはお願いしている。食後の台ふきをお願いする事もある		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの咀嚼・嚥下状態・便秘・下痢等の状態に添った調理法を取り入れつつ、おやつは好きな飲み物等を準備するなどしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを促し、自分で出来る人・出来ない人、それぞれに介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の意思表示が出来る人はその都度トイレ誘導している。尿意・便意のない人は定期的にトイレ誘導し、排泄後は状態を記録している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認を行い、処方された内服薬で様子観察している。食事の工夫・レクリエーションや体操への参加呼びかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴に努めている他に本人が入りたいときは出来る限り希望に応じて実施している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて休憩を取ってもらったり、夜間体では水分補給や空腹感がある人には小さめのおにぎり等を食べてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示の下、看護師が分別を行い投薬準備を行っている。内服時には名前確認をして服用してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや取り入れ等、出来る方については役割をお願いしている。中庭での日光浴・散歩等は気分転換のために実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて郡市内の花見や年中行事等に出かけている。その他、有料ホームと合同でドライブや花見に出かけている。又、お墓参りの希望があれば、家族と共に出かけることもあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては基本的に所持しないようにしているが、どうしてもいくらかは自分で持っていたいと言う人には持ってもらい、金額の確認をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話は可能である。家族からの電話等も引き継いでいる。手紙のやり取りはあっていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や写真を飾ったりしている。ホール内にはBGMを流したりしている。室内の空調管理も心地よく過ごしてもらうように様子を見ながら配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの席の並び具合については、気の合う人を並んでもらったりしている。ソファだったりイスだったりとその時に応じて変わってもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具・持ち物はご自分の馴染みの物をご持参してもらっている。室内の飾り物も家族や本人の思いを大切にしている。問題行動がある場合は衣類を一部預っていることもある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のやりたいことを思いのまま実施して頂いている。		

目標達成計画

作成日: 平成 25 年 8 月 9 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員の「理念」の理解が出来ているとは言い難い。今後は理解と実践に向け、努力していく	「理念」と各棟の努力目標を構築する	各棟の目標設定のために、職員全員の思いを出し合い、目標を掲げる。ホール内に提示する。「やすらぎ便り」発送時に内容を知らせる	1ヶ月
2	26	プランと支援内容がそぐわない点があったが、今後は現状に合った、プランを立てて、ケアの内容も見直していく必要がある	一人一人のプランに添ったケア内容を行っていく	援助経過表のケア内容をプランに添って見直し、職員間で確認しながら、ケアしていくと共に、モニタリングへ生かしていく	1ヶ月
3	10	月1回の「やすらぎ便り」で本人の様子を伝えていますが、家族からのご意見・要望がなかなか上がってこない。	面会時やアンケートにてご家族の意見要望をとりいれる	月1回の「やすらぎ便り」発送時に、家族の思いをくみ取る為に、年2回程度のアンケートをお願いし、改善すべき点は改善していく。	3ヶ月
4	4	運営推進会議は2ヶ月に1回開催していて、行政・地域との連携を保っている。問題点や改善点は全体会にて検討している。会議録については整理していく	運営推進会議では報告のみならず、問題点があれば相談していく。会議録の整理を行う	運営推進会の充実・認知症に対する勉強会を開催する。会議録については専用シートを作成、保管していく	1ヶ月
5	35	防火避難訓練等は実施しているが、水害・震災避難訓練は実施できていない。今後、検討していく	地元消防団との連携し、万一の場合に備える	車イスマークを居室ドアに貼り、日頃から職員の意識を高める。避難訓練や防火訓練時には地元消防団との連携を取っていく。出入口階段のスロープについては現在検討中である。	2ヶ月
6	23	出来る限り本人の思いをくみ取っているが、意思表示が困難な入居者の場合が職員の理解が出来ているとは言えない状態。最善の方法で支援していく	日常の会話や関わり・表情・しぐさから本人の思いをくみ取る事が出来るように支援していく。ホールでの態勢については本人が楽なように支援していく	車イスは移動手段としてとらえ、ソファや畳等を利用して休んでもらったり、声かけ・表情で本人の思いをくみ取る様にしていく	1ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。